



ビブリオバトル普及委員会 2014年度活動報告書

まえがき



ビブリオバトル普及委員会代表 / 立命館大学 谷口忠大

2015年度に入りました。ビブリオバトル普及委員会を立ち上げたのが2010年ですので、遂に5年の歳月がたったのかと感慨深く思えます。最初10人に満たないメンバーで立ち上げたビブリオバトル普及委員会も、どんどん新しい人々が入ってきて運営体制も試行錯誤で変化してきたと思います。ビブリオバトル自体があまり「お金」にならないこともあり、運営のための原資や旅費を確保できないこともあり、地域でのコミュニティ形成に加えて、遠方の人とのコミュニケーションに関してはインターネットや他のコンテンツを積極的に利用してきたところがあります。

今回、対外的な要請もあり「普及委員」という名称利用を「積極的に活動中の人」に限定することにする通称・普及委員名称利用制度を導入しました。名称利用というと、なんだか敷居が高くてもっと良いネーミングはないものかと思っはいますが、「最近、ビブリオバトル活動できてないけど、ちょっと一休みします。」というメンバーが「普及委員」のバッジを外し「会員」として気楽に残れる仕組みとでも思っただければと思います。また、普及委員会の会員も200名を超えまして、「他の地域の人のことがサッパリわからない」という声もよく聞こえてきます。そこで、普及委員の皆さんに「報告書」という形で近況報告をしていただくことを試みとして行うことにしました。ご協力いただきました、ビブリオバトル普及委員の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。そして出来上がったこの「報告書」が皆さんを何らかの形で「繋ぐ」きっかけになれば幸いです。

ビブリオバトル普及委員会はメンバーがネット越しに遠隔地に分散しているボランティア団体であるという、実に近代的な集団です。こんな集団は2000年代前半では成立不可能だったでしょう。しかし、遠隔地に皆が居ながらビブリオバトルという実にローカルな活動を展開する。このことから生じる難しさもあります。経営学の大家であるバーナードは組織の3要素を①共通目的、②貢献意欲、③コミュニケーション、だと言います。ビブリオバトル普及委員会がその構造から抱える問題は、メンバー間のコミュニケーションが取りにくいという点にあります。これは普及委員会が持つ諸条件から必然的に生まれるもので、この問題を緩和することはビブリオバトル普及委員会が楽しく広がりある活動をしていくために重要な要素となります。

これまで、遠隔でのコミュニケーションにはメーリングリスト、Facebookグループ、Twitterなどを利用してきました。これに加え、2014年度には「ビブリオバトルシンポジウム2014」（実行委員長：木村修平先生@立命館大学）を初めて開催し、また、「ビブリオバトルハンドブック」（担当理事：粕谷亮美さま）を出版できました。これらのことはビブリオバトル普及委員会内のコミュニケーションの意味でも大変意義深いものだったと考えています。両名を筆頭に貢献いただいた多くの普及委員会メンバーに深く御礼申し上げます。



皆様のビブリオバトル普及に関する日頃の活動に敬意を払い、感謝を述べるとともに、本報告書が、みなさんがこの一年を振り返りつつ、遠くにいるビブリオバトル普及委員会メンバーと繋がるためのツールになればと思います。

では、初の試みということで、報告書の形式も各メンバーで様々ですが、そんなところも含めて味わっていただければとおもいます。

